

糖尿病だより

糖尿病と目の病気

月刊 糖尿病ライフ「さかえ」 2021 8月号より

糖尿病患者さんに眼科受診をお勧めする理由

罹病期間が長くなると 3大合併症の一つである糖尿病網膜症を起こしやすくなります。自覚症状が無くても、眼底検査で進行状況がわかります。

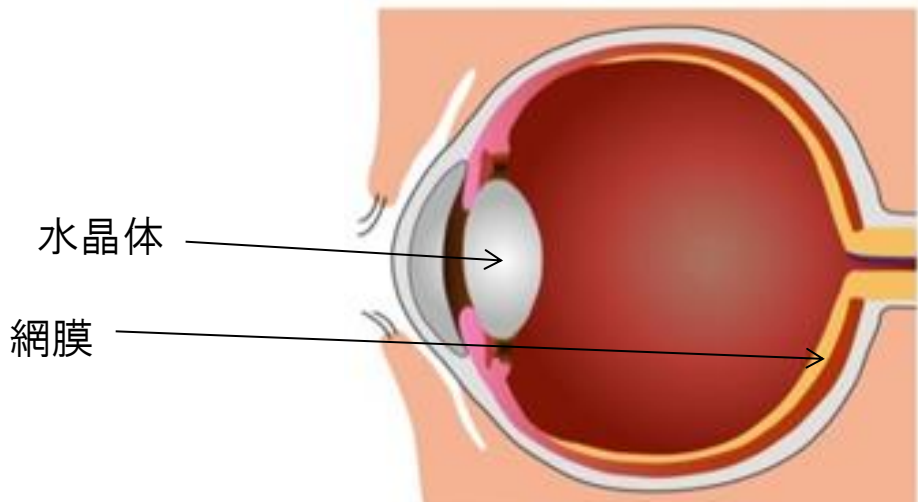
糖尿病眼合併症

- 糖尿病網膜症・・・進行すると新生血管緑内障を発症
- 白内障
- 糖尿病角膜症
- 屈折調節異常
- 糖尿病虹彩炎
- 外眼筋麻痺
- 虚血性視神経症 などがあげられます

※目から得られる情報は、生きていく上で必要な情報の8割に当たるといわれ、目を守ることは生活の質を保ち、豊かな社会生活を送るために重要なことです。

目をカメラに例えると

レンズに相当するのが水晶体で、フィルムに相当するのが網膜です。



代表的な疾患について

* **白内障**は、レンズに当たる水晶体が混濁を生じる病気で、かすむ、ぼやける、まぶしい、視力の低下が症状としてあげられます。年齢の変化で生じますが、高血糖によって早く進行するといわれています。

白内障の根治治療は手術で水晶体の混濁を除去し、人工眼内レンズを挿入します。

* **緑内障**は、眼底にある視神経が障害を受けて徐々に視野がかけてくる病気です。眼球内の圧(眼圧)が高い値だと発症しやすく進行しやすい特徴があります。

40歳以上の5%程度の方に見られる病気です。視野の欠けは左右の目で補ってしまうことが多く、かなり進行するまで症状がはっきりしないため、診断を受けていない患者さんが多くいるといわれています。

* **眼筋麻痺**は、目を動かす神経の微小な循環障害が原因と考えられています。複視(本来一つに見える物が二つに見える、だぶって見える症状)のほとんどは3~4ヶ月で自然治癒するといわれています。